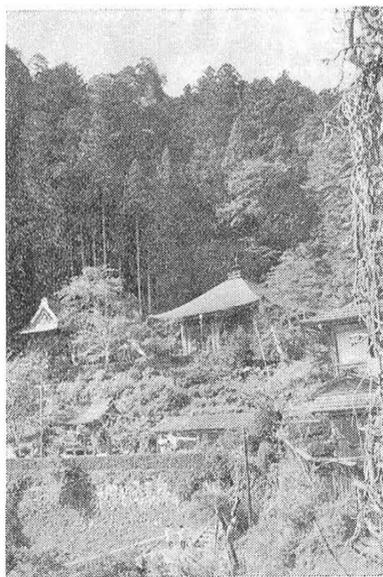


第一〇篇 信仰と社寺



四国霊場 45 番 海岸山岩屋寺

第一章 信仰

第一節 庶民信仰……………三四七

一、共通する信仰……………三四八 二、部落特有の信仰……………三五一

第二節 宗教……………三五三

一、黒住教……………三五三 二、天理教……………三五三 三、金光教……………三五三

四、創価学会……………三五四 五、立正佼成会……………三五四 六、石鎚教……………三五四

第二章 神社・仏閣……………三五四

第一節 神社……………三五五

一、八柱神社……………三五五 二、八幡神社……………三五五 三、御三戸神社……………三五六

四、八社神社……………三五六 五、赤蔵神社……………三五六 六、音無神社……………三五七

七、竜池神社……………三五七 八、河内八社神社……………三五八 九、熊野神社……………三五八

一〇、八社神社……………三五八 一一、大宮八幡神社……………三五九 一二、河崎神社……………三五九

一三、尾崎神社……………三五九 一四、宮柱神社……………三六〇 一五、松原八社神社……………三六〇

第二節 仏閣……………三六〇

一、東光寺……………三六〇 二、正泉寺……………三六一 三、光明寺……………三六一

四、岩屋寺……………三六二 五、宗泉寺……………三六二 六、極楽寺……………三六三

第一章 信 仰

この章では古くから村人の中で年中行事的に行なわれて来た俗信と、神社仏寺以外の教義と組織を持った宗教とに分けて記すことにする。

年中行事は村の始まりと共にある。いずれも季節と関係し、神仏の信仰と結びついており、また農耕生活に深いつながりを持って来ている。だから過去の素朴な農耕一本の生活の中にあつては、一年間の生活の中に一つの区切りを持つ行事として重んぜられて来た。年々同じ暦時がくれば一定の様式の慣習的な営みが繰り返されて来たものであるが、長い間には様式に多少の変遷もあり、また生活の多様化の中でしだいに廃れて行き、今日では全く忘れ去られたものが多い。

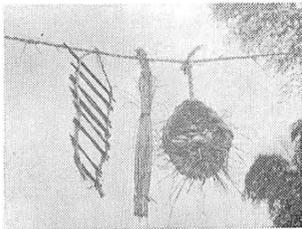
後者については江戸時代末期におこった宗派神道から主として第二次世界大戦後に興った新興宗教など、村内に信者を持つものについて略記することにした。

第1章 信 仰 第一節 庶民 信 仰

民間における俗信について、それがどのように行なわれているか、また行なわれていたかを、(一)村内に共通する信仰、(二)部落に独特な信仰、の二つに分けて述べることにする。

(一)については、村内のそれぞれの地域によって、信仰的行事の内容に多少の違いはみられるけれども、いずれも安全と豊作を共同の力でもって祈願しようとする連帯意識とみることが出来る。また、(二)においては、多くの部落で信仰的行事に娯楽的な行事が付属して、集まって共に楽しむとしたレジャー文化の乏しかった時代の民衆の心構えや生活の様子をみることが出来る。

なお、(一)の行事の内容は、それぞれ地域の全域にわたらないで、ある特定の部落のものについて書いている。これをもって全域の共通的なものがうかがえるものと考えからである。(二)の行事については、主なものだけにとどめた。



「鬼のこんご」
旧正月 16 日 (仕出地区)

一、共通する信仰

地区 西小校区	形態 念仏の口開け	虫 祈 禱	山の 神祭り	雨 乞 い	盆
西小校区	旧正月一六日に、稲わらで縄をない、大きなぞうりを作って、その縄の中央部に取り付けて谷渡しに張った。ぞうりには、わらに包んだ飯に箸もそえてつるした。	夏の盛りの稲が大きくなったころ、部落の者全員がお堂に集まり、天井の中央から樺の枝をつりさげた下に輪になってすわり、「ナンマイダー」を唱えながら、数珠を日暮れまでに一千回くった。それがすむと、松明に火をつけ、鐘と太鼓ではやしながら川に流した。天井につるした樺の小枝を、それぞれの田に持ち帰って立てた。	旧七月一四日、部落ざかいの山の広場にある祠に、その年の当番が向いて掃除をし、ろうそくを立てて山の神を祭った。夜になると、全部落民がその広場に集まり、先達が念仏を唱える後に輪になってぐるぐる回り、山の神に、部落と家内の安全を祈願し、その後で酒もりを開いた。現在では八月一四日に、部落の民家の近くで酒もりだけを開いている組がある。	日照りが続き、水不足で不安がつると、部落全員が集まり、薪をたいてみんなで、「アマレダアマレ、ゴンゲンドー、テンジクテンノ龍グンドー」と、太鼓と共に、一日中唱えて祈願した。	八月一七日に、お寺で祖先の霊を供養し、夜は盆踊りをする。
仕七川小校区	旧正月の一六日に、組の者全員が集会所に集まって行なわれた。現在では、一月四日に行なっている。	戦前まで、初夏のころ、組中が神社に集まり、鐘と太鼓で祈願した。その後、虫を追って組の田畑をまわり、部落はずれの川原に虫を追いつめ、そこで松明をたいて虫を焼きはらった。また、その松	六月一日に悪病よけとして行なわれる。	戦前まで、神社に組全員が集まり、鐘、太鼓をたたいて長時間祈願した。最後に、神官が「おみくじ」を引いて、雨の時期や量を占った。	八月一五日に、家の軒先に特別の祭壇を立て、四方に若竹を立て、くず葉かずらをめぐらし、里芋の茎と葉を供えたり、芭蕉の葉をしいてその上に果物などを供えたりして、先祖の位牌をおき、線

地区 形態	念仏の口開け	虫 祈 禱	山の神祭り	雨 乞 い	盆
二笹小学校 黒藤川小区	<p>師走に、そばを食べて念仏を唱えると不幸がくるといわれ、旧正月一六日に、念仏の口開けとして、会堂に集まり、念仏を唱えて大御酒をいただく習慣があったが、昭和一〇年頃よりいつの間にか行なわれなくなった。</p>	<p>江戸時代より、旧七月に全部落民が、夜明けと共に正泉寺に集まり、本堂では住職の読経が日暮れまで続く中で、農民達は輪になって、「ナンマイダ」を唱えながら百万べんの大数珠を一日中くり回した。日が暮れると、各人が竹の松明に火をつけ、わら人形を先頭に、鐘と太鼓で川に出た。そのわら人形を流した。部落民は、この火祭を見るために、一日中仕事を休んで、夏の夜をうちわ姿で楽しんだ。</p>	<p>現在では途絶えているが、田植えがすむと豊年を願って行なっていた。</p>	<p>各伍組に祭ってあった。山の仕事をする人が多かったため、毎月一八日にお祭りをしていた。</p>	<p>大中臣の袂のできる者は八社神社に、般若心経のできる者は正泉寺にと別れて集まり、二組になって、太鼓のドンドコドンドコドンドンのリズムに合わせ、天に向かって声を合わせて、前半を「アイメターモレ、リュウグウド」と呼ぶと、続いて後半を「テンジクテンハクモレ」と呼んで、三日三晩祈り続けた。女房たちが、毎日弁当を運び、家では老人が神仏に祈った。</p>
二笹小学校		<p>一・五・九月のそれぞれ二日に山の神をお祭りするため、部落民全員がお堂に集まっておこもりをする。</p>		<p>ヨラキレは二笹山麓にある石鏡神社で、二笹地区は八社神社で、昭和初年までたき火をたき、太鼓をならして祈禱していた。</p>	<p>八月一三日に無縁の仏を供養する。公民館の主催で、学校にて盆踊をする。</p>

二、部落特有の信仰

(文末の「いた」形は過去に行なわれていたもの、「いる」形は現在も続いて行なわれているもの)

仕七川小校区								西小校区	地区名	行事名	部落名	行事内容
小宮社	若宮八幡社	白尾社	椿社	種祈禱	あたごさん祈禱	お般若	鬼の金剛	おひまち	堂山祭	大川	旧六月二八日、無事息災に夏越しができることを祈願して、堂山鎮守社でおもりをしている。	
東古味	東古味	東古味	東古味	上黒岩	上黒岩	有枝	有枝	大川	大川	大川	身祈禱ともいい、春の彼岸前後に、各組ごとに宗泉寺の住職のお経と護符を受けて酒もりをする。	
											旧正月一六日に、家内安全を願って、全部落民が鬼を追いはらう行事を行なっていたが、現在は途絶えている。	
											正中中に全組員が集まって念仏を唱えて部落と家内の安全を祈願する。後で酒もりを開く。	
											一月二四日と二月二四日に、火の神様である「あたごさん」に家内安全を祈願し、組内が、当番制で料理をまかなって酒もりを開く。	
											各家からトウキビの種を持ち寄り、輪になってならんだ中央に置いて、全員が鐘と太鼓で念仏を唱えていた。	
											旧一月八日に、地内者によって祭っていた。	
											一月一五日と七月一五日に祭行事を行っていた。	
											旧五月五日と旧九月九日に地内者によって祭られていた。「山伏塚」と言い伝えられている。	
											地内者七名が祭っていたが、現在は一戸のみが祭っている。	

地区名	行事名		部落名		行事内容
	三宝山	火祭り	金比羅祭り	御天王	
仕七川小校区	三宝山	火祭り	金比羅祭り	御天王	<p>旧一月三日に、五穀奉饒を祝って催されていた。</p> <p>一月二四日に、火災除けを願っておこなわれた。</p> <p>三月一〇日に、家内安全を願って行なわれる。</p> <p>七月七日にお宮で行なわれる。</p>
東川小校区	大はんにゃ	天王様	金比羅祭り	御三宝	<p>初寄りの日に、とうやの所にお坊さんを招き、家内安全の念仏を唱えている。</p> <p>一月七日、悪病除けとして祭られ、各戸から寄付金で「くじ」を作っておくじ引きをしている。</p> <p>三月一〇日と一〇月一〇日に、お坊さんを招いてお祭りをしている。</p>
南小校区	庚申供養	大松	全松	全松	<p>三百年以上続いて行なわれた行事であるが、現在は途絶えて、地藏まつりをしている。</p> <p>一〇月二八日が祭日であるが、伝染病が流行したときにも病除けとしてお参りした。</p>
黒藤川小校区	三方様	狚師谷	岩トケメ市	岩トケメ市	<p>昔は全域で行なわれていたが、現在では、三つの組で、一月三日に豊作の神として祭り、朝から組の全員が集って、そばを食べ、酒をくみかわす。</p>

第二節 宗 教

一、黒 住 教

大正末期、大崎雪弥によって竹谷に開所される。本村では、七鳥・竹谷・長瀬・河口に教会所をもつ。毎月三日に久万町血木の明神教会所に参拝し、一五日の定会日のほかに、冬至祭・夏越祭・教宗祭が催される。また、年一回本部への参拝もある。

二、天 理 教

昭和三年一〇月二五日、青木信衛によって、東川一ノ五一四番地に開所された。毎月四日にお祈りをする。また、大祭を元日、四月四日、一〇月四日に開く。

三、金 光 教

昭和七年四月二一日に、桜木治美が東川一ノ四九番地に金光教東川教会を開所。毎月八・一八・二八に定例会をも

二籠小校区		鬼の金剛	全、域	各組ごとにしめ縄を張り渡し、日暮れになると、若い衆が、よその組の物を取り合つて楽しんだ。
金比羅祭り	全	域	ずっと昔から行なわれている行事で、旧一〇月一〇日に、寺の住職が、各組へお経をあげに回る。	
赤蔵神社祭り	全	域	四月七日、七月一五・一六日、十一月一五・一六日に、黒藤川の田野神主による祭事が行なわれる。	
金比羅祭り	全	域	三月一〇日と一〇月一〇日に祭事を行ない、その後で子供相撲が行なわれていたが、近頃は学校行事の関係で、子供の日に繰り替えて実施している。	
赤蔵神社のお社日	置	俵	現在、道路はたに新しく赤蔵神社が建てられて御霊が移されたが、木地に残っているお堂で、三月一八日と九月四日におこもりが行なわれる。	
猿楽堂の御渡し地蔵大師祭り	ヨ ラ キ レ		八月二一日に祭事が行なわれ、高知の名野川や東川の鏡川からの参拝者も多かった。祭りの後で、おとなの大相撲が行なわれていたが、現在はやめてい	

ち、大祭五月七日と教夜祭一月七日のほかに、元旦祭と春秋靈祭を春分と秋分の日にもっている。(久万教会に本村より一五名の信者が入会している)

四、創価学会

昭和三〇年二月に、片岡又雄の入信により、東古味に集会所をもつ。毎月一日を定例会日としている。

五、立正佼成会

昭和三四年、大西俊満の入信にはじまり、教会所はもたない。毎月一・五・一〇・一四・一五・二八日を定例会日とし、年内には一月一・五・一五日、二月三日、三月五日、四月八日・二八日、七月一三・一四・一五日、九月一〇日、一〇月一二日、十一月一五日、十二月八日が行式日となっている。

六、石 鎚 教

昭和三四年秋、若山高夫の入信によって、日ノ浦成に教会所が開所される。

毎月、一七日を祭日とし、祭日には、参拝者のご神像をいただいて、家内安全と五穀豊饒を祈願する。また、四月一七日の春の大祭と、一〇月一七日の秋の大祭には、三〇人にもおよぶ信者が、遠くは松山・高知からも参拝し、春にはご守護をいただき、秋にはごまをたいて夜どうしおこもりをする。そして、七月一日からの石鎚山お山開きには全員石鎚山に詣でて祈願する。

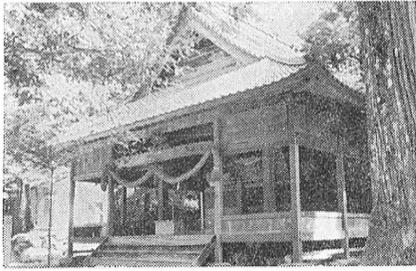
第二章 神社・仏閣

村内には一五座の神社と六宇の仏閣がある。その創立と祭神や本尊・主な変遷・および二〇年前の本村合併当時から現在に至るまでに現われている顕著な変化について記すことにする。もちろん社寺の創立については歴史的裏づけはなく、言い伝えに従った。特記すべきことからは、過疎現象による継承者の減少の中におきた祭礼等の簡略化と、社会のしくみや生活様式の変化に伴なう宗教(信仰)への薄視傾向である。

第一節 神社

一、八柱神社

美川村大字大川甲四四二番地。祭神は五男三女神。大川部落の各組にあった八つのお宮を、天正一八年（一五九〇）に合祀して総河内八社大明神社を建立。明治三年（一八七〇）に八柱神社と改称して郷社に列格。明治八年（一八七五）境内に天神・金比羅社を建立。昭和四四年二月一日、



八柱神社（大川）

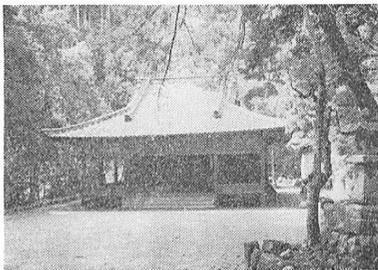
忠魂碑を建立する。旧六月二八日の夏祭と、建国記念の日における遺霊祭には、部落中総参加して盛大な祭事を行ない、会費をつのって終日お宮に参籠する。例祭日は一月一三・一四日であったが、村内例祭日に統一し、一五・一六日に行なっている。近頃は、輿守

が少ないため、自動車で神輿渡御を行なっている。獅子舞は伝統的で、保存会も結成されていて例祭には毎年奉納されている。

二、八幡神社

美川村大字有枝二三八番地。祭神は、誉田別命、足仲彦命、氣長足比売命、相殿端津比売命、田心比売命、市杵島比売命であり、旧社格は村社である。延暦二三年（八〇四）六月一五日、巖

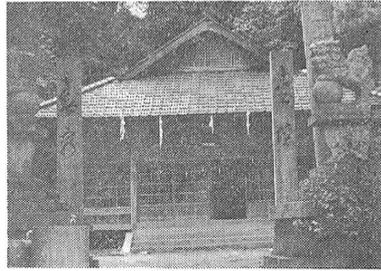
島神社より伊予の国に一四社が勧請された中の一社であり、延久三年（一〇七二）に石清水八幡宮勧請の、伊予の国一八社の中の一社でもある。昭和四三年ころまでは例祭に獅子舞が奉納されていたが、若年者減少のため現在は途絶えている。



八幡神社（有枝）

三、御三戸神社

美川村大字上黒岩二ノ七二五番地。旧社格は村社で、祭神は国常立命・大山津見命・鹿屋野比売命・建速素盛鳴命



御三戸神社（上黒岩）

である。明応四年（一四九五）に国社として建てられたとの言い伝えがある。もとは御三戸に建てていたものを、昭和三〇年の美川村合併による役場建設のため、遙拝所であった現地に移転された。

四、八社神社

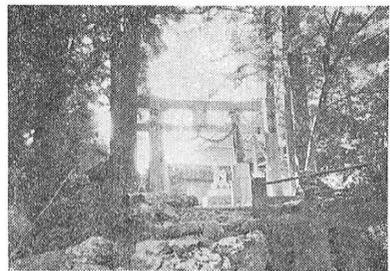
美川村大字黒藤川本組。祭神は天之忍穗耳命、天穗日命、熊野久須比命、天津彦根命、多伎都比売命、多岐理比売命、狭依理比売命である。仁平三年（一一五三）正月に建てられて川中大明神として奉斎。現本殿は寛永三年、拝殿は

元禄六年一二月、鳥居は宝曆五年九月に建立されて、

順次社殿の整備がなされていった。明治四〇年七月、村社に定格。昭和四一年拝殿の改築が行なわれ、その他の工作物や施設・設備の充実もなされて年と共に敬神の念が高まりつつある。

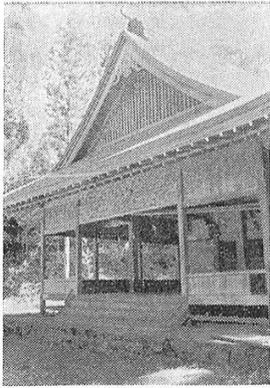
五、赤蔵神社

美川村大字黒藤川三〇〇三ノ一番地。祭神は天忍穗耳命・天之菩卑命・天津日子根命・活津日子根命・熊野久須比命・市杵嶋比売命・多岐都比売命・多岐理比売命で、仁平元年（一一五一）正月に建立。当社は源三位頼政の母が赤蔵池で身を淨め、一子頼政の出世と源氏の再興を祈願したといわれる神社である。明治四三年（一九一〇）に黒藤川の八社神社に合祀されたが、昭和三四年五月三一日に社殿を復興して元の社に奉斎。昭和三六年一二月社殿が火災のた



八社神社（黒藤川）

し、当初は三戸大明神と称していたが、荒神であることから、氏子崇敬者や神主の合議によって、明治三年（一八七〇）に社



音無神社（沢渡）



赤蔵神社（二箇）

め、神霊を大古の日月社に遷宮していたが、四五年に社殿を再興新築した。

六、音無神社

美川村大字沢渡。祭神は手力男命・猿田彦命・宇須女命・雷命・高竈神・天照大神・月夜見神で、神亀五

名を音無神社と改名。戦前は村社として、三大祭には村より幣帛科を奉り、村長が供進使として参向奉仕していたが、終戦と共に廃止となった。祭祀などについては、大きな変革はなく、今も獅子舞が奉納されている。昭和四〇年、拜殿の大改築を行なった。

七、竜池神社

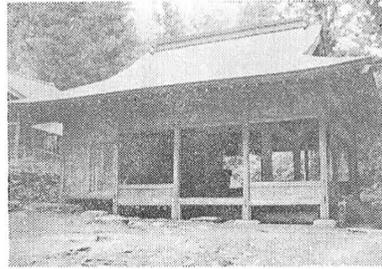
美川村大字七鳥四ノ一二三の二番地。伊予漫遊記による、「弘仁六年海岸山岩屋寺空海開基の時、峰々谷々に七権現を擁護神として齋く」とある中のひとつが当社。祭神は高籠神・速秋津比売神・速秋津日子神である。昭和三〇年までは神輿を例祭に出していたが、戸数二〇戸・人口一〇〇人ほどの地域では興守も少なく現在では休止している。氏子のまとまりがよく、神社がコミュニティの場となっている。



竜池神社（竹谷）

八、河内八社神社

美川村大字七鳥三ノ二九五ノ三番地。祭神は主神の天忍あめのおし穂耳命ほみのみことと五男三女神。弘仁六年（八一五）空海が岩屋寺開



河内八社神社（長瀬）

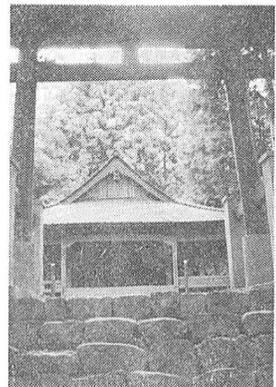
建てた一社を天正一八年（一五九〇）に八社に合祀した中の一社と伝えられる。明治一三年（一八八〇）一〇月、拜殿を再建造営。現在氏子数は約四〇戸であるが、老人・婦女子の家庭が多いため他の祭事はよくできるけれども、秋の例祭には神輿も出ない現状にある。

九、熊野神社

美川村大字七鳥一ノ五五番地。祭神は神武天皇のほか、国常立尊くにたかぢのみことをはじめ一五柱の神がまつられている。創立はさだかでないが伊予浮穴誌によると、推古天皇御宇四年

四月、紀伊熊野より勧請遷宮された

伊予国二四社の中の一社と伝えられる。神武天皇東遷二六〇〇年祭には、国幣金の幣帛



熊野神社（七鳥）

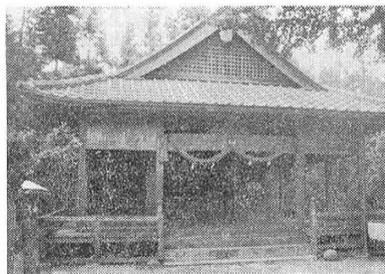
供進があった。明治四〇年一月二七日に村社に列格。戦後、旧社格が廃止になったり農地改革で社有田を失ったりしたこと、氏子（現在約三〇戸）にも敬神の念がうすらいでいたが昭和三〇年ころより、祭礼等も昔どおりに復活し、例祭には五年おきくらいに神輿の巡幸もある。

一〇、八社神社

美川村大字七鳥二ノ五〇七番地。天忍穂耳命あめのおしほみのみことを主神とした五男三女神が祭神。創立不詳。天正年間、戦国争乱の時、誠忠の士新田義貞を武神として合祀。明治三年一二月二二日七鳥鎮座の熊野神社に合祀したが、戦後の憲法改正によって信仰の自由が認められたことから昭和二二年に分

第2章 神社・仏閣

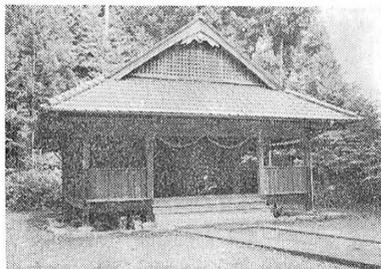
美川村大字東川二ノ一
九二番地。祭神は天忍穗耳命・天穗日命・天津彦根命・活津彦根命・熊野久須毘命・多岐里比売命・多岐都比売命・市杵嶋比売命であり、創立不詳。東川庄屋の氏神である天満宮と、東川開拓



八柱神社（西古味）

一、大宮八幡神社

社して、宗教法人法の示すところによって創設。殿内における祭事には比較的多くの氏子が集まって祭祀に参加しているし、五年に一回くらしい割合で神輿も渡御している。



大宮八幡神社（東川）

の先人が祭った氏神の二社が合祀されたものである。終戦と同時に東川の河崎神社に合祀されていたが、昭和二十三年八月五日に分かれて当社を再興した。

一、河崎神社

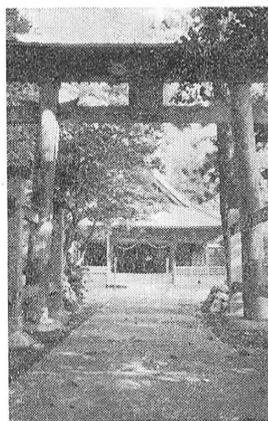
美川村大字
東川一ノ一番地。祭神は天忍穗耳命と五男三女神。

創立は慶雲二

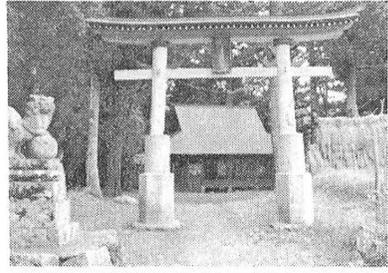
年（七〇五）十一月三日。慶応年間に郷社に列格。明治六年（一八七三）一〇月一九日、河崎神社と呼ぶ。東川開拓の人藤原舎人を一の神として、現在、氏子は四四〇世帯で、一月一五日に例祭が行なわれる。

一、尾崎神社

美川村大字中黒岩甲七〇番地。創立は仁平三年（一一五三）以前のものといわれ、祭神は天照大神と建速須佐男命



河崎神社（東古味）



尾崎神社（中黒岩）

年（一九一九）二月九日に全部焼失したが、氏子の協力によって現在の社を建てた。

一五、松原八社神社

美川村大字日野浦甲八一
九番地。創立は大宝元年
（七〇一）以前のもので、

である。

一四、宮柱神社

美川村大字日野浦甲二六
三〇番地。天文二年（一五
三三）に建立。祭神は志那
津比古命・志那都戸辺命・
雅御産巢日命・大物主命・
宇加御魂命である。大正八



宮柱神社（日野浦）



松原八社神社（日野浦）

第二節 仏 閣

一、宝瑠山東光寺

美川村大字七鳥一ノ一七
一番地。新義真言宗豊山派
で西光寺といいい大聖不動明
王を本尊とする。火災のため、
創立は不詳であるが、

祭神は天之忍穗耳命・市寸
嶋毘売命・熊野久須毘命・
天津日子根命・活津日子根
命・天之菩昇能命・多岐津
比売命・多岐理比売命であ
る。明治初期の廃仏毀釈に
より、現在の光明寺が分離
された。



東光寺（七鳥）

室町時代の作といわれる柄香炉が宝物として残されている。明治一八年（一八八五）に、沢渡にあった宗法寺が当寺に合わされ、大正五年（一九一六）にはまた東川の東泉寺が合寺されて、東光寺と改名した。昭和初期には檀家数五〇〇戸ほどを数えたが、現在では三五〇戸ほどに減っている。病気平癒の祈願などは岩屋寺に参拝する人が多いため、八月二五日のお施餓鬼以外には、参拝者はあまりない。

一、晴雲山正泉寺
せいうんざんしょうせんじ

美川村大字黒藤川中組にあって、宗派は浄土宗。本尊は藤原時代の作といわれる阿弥陀如来（村指定文化財）である。また付属建物として、烏ヶ滝金比羅大権現と薬師如来も安置されている。創立は明らかでないが、大権現の建立が文治元年（一一八五）であることから、それ以前のものであろう。この寺は、当地方が最初に開けたといわれるトロメキにあったが、のち、土居組の上岡肇次の屋敷に移され、文化二年（一八〇五）に現地に建立された。檀家数は、三〇〇戸を数えたこともあったが、合併当時には二三

〇戸、現在では一八〇戸ほどに減っている。行事としては八月一五日の

施餓鬼と一〇月一四日の十夜法要が、戦前と変わりなく行なわれている。

三、正覚山光明寺
しょうかくざんこうみょうじ

美川村大字日野浦甲一二六七番地。一〇五代正親町天皇の末期、船草出羽守源昌綱によって建立されたが、天正一〇年（一五八二）に天徳寺（松山市御幸）の雲巖和尚を請じて中興したことによって開山となる。建立当時は松原寺とよばれ、日野浦の松原八社神社に神仏混淆で祭られていたが、明治初年に分離して当地に移転し、光明寺と改名。本尊は薬師如来（西京住人藤原義照作）で、釈迦如来・達磨



正泉寺阿弥陀如来像（黒藤川）

大師像も安置されている。

宗派は臨済宗妙心寺派である。安政五年（一八五八）

九月一〇日と明治一〇年

（一八七七）に再建。儀式

や行事としては、毎月一日

と一五日の祝聖、三月二一

日の春季彼岸会、四月八日

の花祭、四月一五日の大般

若会、八月一五日の盂蘭盆会、

九月二三日の秋季彼岸会、

一二月八日の成道会のほかに、

虫祈禱、観音講が行なわれ

る。檀家は合併前後には三〇〇戸ほどあったが、現在では

二一〇戸に減り、四月八日の花祭と虫祈禱や観音講のほか

には、殆んど参拝者がない。

四、海岸山岩屋寺

かいがんざいおやせじ

美川村七鳥にある。新義真言宗豊山派に属し、四国八十八ヶ所霊場四五番の札所となっている。寺の開基は弘仁六年（八一五）と伝えられる。本尊は不動明王で、旧参道の



光明寺（日野浦）

仁王門は、村指定の文化財となっている。菅生山大宝寺の奥の院とされていたが、明治初年に大宝寺の末寺となる。

おもな祭礼行事としては、元日の修正会と、旧三月二一日

のお大師さん、旧四月八日

のお釈迦さんの祭りがあ

る。三月二一日には、昔と

変わりなく、三、〇〇〇人

から五、〇〇〇人の参拝者

があるが、おこもりをする

人はだんだん少なくなっ

てきている。

五、観音山宗泉寺

かんのざんそうせんじ

美川村大字大川甲一一九六番地。臨済宗東福寺派の中本山である。正堂土顕和尚の開山により、応永二年（一四一五）に禅寺として建立。本尊は、十一面観世音菩薩である。明治一九年（一八八六）の大暴風で倒壊。そのままの古木で元どおり再建したが、いたみが早くして昭和一六年に



岩屋寺仁王門（竹谷）

美川村有枝二一五六番地。室町時代に大川宗泉寺の末寺として建立。宗派も臨済宗東福寺派である。本尊は弥陀三尊像で、昭和三七年一〇月一日、村指定の文化財となっている。檀家数は宗泉寺の

六、善遊山極楽寺ぜんゆうざんごくらくじ



宗泉寺(大川)

新築した。檀家数は二〇年前には三五〇戸ほどあったが、現在では一二〇戸。旧暦四月八日の花祭りと、新暦八月一七日の施餓鬼と盆踊りが、今も続いている。



極楽寺弥陀三尊像(有枝)

中に含まれている。この寺は代々宗泉寺の僧が隠居して寺守をしていたが、現在では無住で、宗泉寺の僧が兼務している。

